

丈夫な血管 長生きのもと

大動脈瘤は症状がなく、破裂したときには死亡率の高い病氣と話ししました。では、どうしたら見つかるのでしょうか？

当院に初診で来た大動脈瘤の患者さんは、他の病気で診療所に通院している、たまたま超音波検査やコンピュータ断層撮影(CT)検査で見つかったか、健康診断の結果で精密検査が必要と言われた人がほとんどです。

大動脈瘤④

一度チェックすれば数年は心配ないでしょう。

大動脈瘤は、一、二カ月で大きくなるのはごくまれで、年余にわたって大きくなるのが一般的です。男性で六十五歳以上になつたら、数年に一回の大動脈のチェックによる3%以下です。

数年に1回は検査を

り、破裂しない大きさの時点で見つけることができると思っています。

欧米の論文では、大動脈瘤の健康診断検査は、費用対効果比が見合わないと結論するものがほとんどですが、安心の効用は算出されていません。手術では、太くなつて

壁が薄くなった大動脈瘤の中核と末梢を一時的に遮断します。そしてプラスティックを微細な糸状にし、それを編んだ人工血管を、太くなつていない大動脈に合成糸で縫い付けます。人工血管のプラスティックは、廃物処理に困るくらい長持ちするペットボトルと同じ材質なので、通常は劣化しません。

錦見 尚道先生
(にしきみ なおみち)



名古屋生まれ。東海
高校、名古屋大学医学
部卒業。名古屋大学修
後、米国留学。桐生厚
生総合病院で研修中に
血管外科を志望。名古屋
第一赤十字病院血
管外科部長。